

総持寺修行僧を対象に 臨床宗教師の育成開始

鶴見大

曹洞宗の宗門校・鶴見大（横浜市鶴見区）で、大本山総持寺の修行僧を対象に「臨床宗教師」の育成事業が行われている。19日には2回目の研修が行われ、コミュニケーションについて学んだ。

日本版 チャプレン 宗門系で関心高まる

この日の研修は2人1組の「自己紹介」を通じて、自己理解や意思伝達の技能を深めた。ようやく上山後100日の禁足から明けたばかりの新到

の僧が半分を占め、普段は目線を合わせることも戒められる古参とも組になり、やや緊張した面持ちで研修に臨んだ。

「終末期医療を支援する臨床宗教師の育成事業」として、同大先制医療研究センターが主体となり総持寺との協働で今年4月から取り組んでいる。「養成基礎課程」と

して、同寺の修行僧が傾聴に必要な知識や技能、態度などを習得する。将来的には曹洞宗における仏教系医療施設の設定も展望している。

現在、修行開始後1～6年目の26人が登録している。研修ではコミュニケーションの基礎を学ぶ

われないが、福祉施設など他機関と連携した「専門課程」や「臨床課程」の実施も検討している。同事業を担当する高屋継仁・総持寺維那補は「檀家の相談などを受け止め、同じ目線に立って聞く能力も必要」と話す。

「臨床宗教師」は、東日本大震災を契機に東北で始まった「日本版チャプレン」を養成する試み。龍谷大でも今年度から同様のプログラムが開設されるなど、宗門系・宗教系大学の間で関心が高まっている。

（佐藤慎太郎）